

授業科目名	教育課程論
科目番号	CB23011
単位数	2.0 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	春AB 木1,2
担当教員	
授業概要	教育課程とは、学校において教え・学ばれる意図的に組織された教育内容の総体を指す。その内容は普遍(不変)的ではないため、本来であれば時代や場所によって多様に編まれうる。しかし学校教育を通して染みついた被教育経験は、しばしばそのことを忘却の彼方に追いやってしまう。そこで本講義は受講者の被教育経験を手掛かりにしつつも、それをカリキュラム研究の眼で反省的・多視点的に捉え直していく。特に初等教育段階の教育課程を対象に据え、受講者が慣れ親しんだはずの教育内容を異化(Verfremdung)し学びほぐす(Umlernen)ことが目指される。
備考	対面
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	教育学の基礎的体系的知識、教育学における総合的思考力、教育学に関する先導的発信力
授業の到達目標(学修成果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初等教育における教育課程の意義と課題についてカリキュラム概念との異同を踏まえて理解できるようになる。</li> <li>・学習指導要領の歴史的変遷について理解できるようになる。</li> <li>・「カリキュラム・マネジメント」「潜在的カリキュラム」「学校と生活の接続問題」「教科書検定制度」についてその概要と論点を説明できるようになる。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 本講義の概要(オリエンテーション)</p> <p>第2回 教育課程とカリキュラム 何がどう違うのか?</p> <p>第3回 教育内容の平等性と多様性(1) ナショナルカリキュラムの是非をめぐる</p> <p>第4回 教育内容の平等性と多様性(2) ナショナルカリキュラムの是非をめぐる</p> <p>第5回 系統主義と経験主義(1) 学習指導要領の「振り子」を理解する</p> <p>第6回 系統主義と経験主義(2) 学習指導要領の「振り子」を理解する</p> <p>第7回 ゆとり教育はなにが問題とされたのか(1) 「ゆとり」批判とその妥当性</p> <p>第8回 ゆとり教育はなにが問題とされたのか(2) 「ゆとり」批判とその妥当性</p> <p>第9回 能力をどう育てるのか(1) 資質・能力ベースのカリキュラムをめぐる諸論点</p> <p>第10回 能力をどう育てるのか(2) 資質・能力ベースのカリキュラムをめぐる諸論点</p> <p>第11回 学校で学ぶことは生活の役に立つのか(1) 学校と生活の接続問題をめぐる教授学</p> <p>第12回 学校で学ぶことは生活の役に立つのか(2) 学校と生活の接続問題をめぐる教授学</p> <p>第13回 教育内容における「現実」とはなにか(1) 「命の授業」から考える</p> <p>第14回 教育内容における「現実」とはなにか(2) 「命の授業」から考える</p> <p>第15回 「隠れた」カリキュラムと「隠した」カリキュラム(1) 学校教育における潜在的カリキュラム</p> <p>第16回 「隠れた」カリキュラムと「隠した」カリキュラム(2) 学校教育における潜在的カリキュラム</p> <p>第17回 教科書はどうつくられるのか(1) 教科書検定をめぐる問題</p> <p>第18回 教科書はどうつくられるのか(2) 教科書検定をめぐる問題</p> <p>第19回 教育内容をめぐる自立と服従(1) カリキュラム・マネジメント/全国学力テストを事例に</p>

授業計画	第20回 教育内容をめぐる自立と服従(2) カリキュラム・マネジメント/全国学力テストを事例に
履修条件	
成績評価方法	・講義内で提出するコメントペーパー(20%)、講義の予習・復習を目的としたレポート(40%)、グループプレゼンテーションの成果(20%)、期末レポート(20%)
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	本講義では2授業時間に1度、計8回予習のためのレポートを課すため必ず作成のうえ講義に参加すること。
教材・参考文献・配付資料等	教科書は特に指定しない。必要な資料は講義担当者が印刷もしくはLMS上で配信する。参考文献は以下の通りである。 1. 吉田武男監修/根津朋実編著、『教育課程(MINERVAはじめて学ぶ教職)』(ミネルヴァ書房, 2019年) 2. 樋口直宏/林尚示/牛尾直行編著、『実践に活かす教育課程論・教育の方法と技術論』(学事出版, 2020年)
オフィスアワー等(連絡先含む)	随時(会議・授業・出張等を除く)。
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	・この講義では、伝統的な一斉講義(独: Vorlesung)の形式と学生によるプレゼンテーションを織り交ぜながら進行します。各講義内容に関して履修者が積極的に考えたり、疑問に思ったりすることを期待しています。 ・各講義の終了後に「コメントペーパー」を書いてもらいます。コメントペーパーには講義の内容についての感想や疑問を記入してもらいますが、優れた内容については次回の講義の冒頭で紹介し、フィードバックをします。 ・本講義では履修者の意欲や積極性など測定不能な心的内面(「思っていること」)を直接の評価対象にはせず、あくまでコメントペーパーやプレゼンテーション、レポートなど「語られたこと/書かれたこと」のみを評価します。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	初等教育, 学習指導要領, カリキュラム・マネジメント, 潜在的カリキュラム, 学校と生活の接続問題, 多視点的授業, 教科書検定制度